

校訓	友 勤 自 愛 勉 治	 令和6年度 東中だより 第19号	発行日	令和7年3月10日
教育目標	新しい多様化の時代を生きる 心身ともにたくましい生徒の育成		発行者	伊丹市立東中学校 校長 前田 徳三

【第七十七回卒業証書授与式】

3月は、「旅立ちの季節」です。大切な人や場所との“別れ”を乗り越える試練の時期でもあります。けれど、「またいつか」とそう言って笑顔で手を振って、お別れしたいと思います。紡いだ絆や、ともに過ごした時は、心の中に生き続け、これからもずっと卒業生を支えてくれるに違いありません。



本校は、令和7年3月14日(金)に東中学校「第七十七回卒業証書授与式」を挙行いたします。本年度は245名が東中学校を巣立ちます。保護者、地域の皆様には様々なところで、本校生徒を温かくお守りいただき、誠にありがとうございました。感謝申し上げます。卒業生が、これからの自分の夢に向かって一步一步着実に歩んでくれることを祈っています。

【主体的な子どもの育成】

学習評価の観点を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価しています。中央教育審議会の教育課程部会では、「主体的に学習に取り組む態度」とは、「粘り強い取り組みを行おうとする」とこと、「自らの学習を調整しようとする」とことと示されています。

本校においても子どもの主体的な態度の育成に努めています。それは、日々の授業において、ただ単に学力を上げることや高校進学だけを目標にするのではなく、将来を担う子どもたちが自ら目標を掲げ、主体的に考えて行動する力を育てています。

また、子どもたちが、これから起こりうる様々な課題を解決すると同時に、論理的・批判的に思考する力を兼ね備えながら、豊かな人生を切り開いていけるような大人に成長してほしいと願って、教育活動に努めています。

人生は無数の選択で構成されており、その一つひとつが私たちの未来を作っています。小さな選択を積み重ね、自己決定することが主体的に生きることに繋がります。

子どもの周りにいる我々大人は、子どもたちが失敗しないように導いてしまうことが多いものです。しかし、かの有名な『エミール』で、ジャン＝ジャック・ルソーは、「あれをしなさい、これをしなさい、あれをするな、これをするな。そんなことばかり言っていたら、子どもたちはそのうち、『息をしなさい』と言わないと呼吸さえしなくなるぞ」と言っています。また、「気づきから学びがあるが、子どもが気づく前に教師が指導してしまう。子どもの気づきを大切にしたい」とも言っています。

授業においても、子どもが間違わないように教師が手ほどきしたり、先回りをしてレールを引いたりしないよう心掛けています。そうでないと、子どもたちは考える習慣が身につかず、指示待ち人間になってしまいます。また、「誰かが何とかしてくれるだろう」「そのうち何とかなるだろう」という考え方ができないようになってはいけません。



一方、主体的な人は幸せであるという研究結果があります。何かを嫌々している人は幸福度が低く、主体的、自主的に行っている人は幸福度が高いということは当然のことだと思えます。

人生100年時代と言われる今、子どもたちが将来にわたって主体的に学び続け、より良い人生を築くための基礎を学ぶために、本校では「指導観の転換」を図り、『主体的・対話的に学ぶ力』を身に付ける授業を行えるよう研究を進めています。また、各ご家庭におかけましても、子どもの少々の失敗を責めるのではなく、「聞いて 助けて 任せて 見守る」へと子どもの可能性を信じ、子どもの主体性を引きださせ、成長を支えていただきたいと思えます。

学習などというものは、そもそも主体的なものであり、個人の能力や関心に応じて進められるべきものです。しかし、コロナ禍を経て、多くの専門家が子どもたちの主体性や挑戦しようとする力がだんだん弱くなってきていると警鐘を鳴らしています。しかし、自分の力で困難を乗り越える力や、対話を通して課題を解決する力は将来必要なことです。困難や苦難があっても、自分で何とかして切り拓いていく力を育ててもらいたいです。そして、回り道をしてもしも着陸地を間違えたとしても、自分の選択に責任を持ち人生を主体的に生きる子どもを育てていきたいと思えます。

【ダイヤモンド】

面接試験を受ける3年生全員に、私自身が直接、面接練習をさせていただきました。そこで、ダイヤモンドの話をしました。ダイヤモンドを構成するのは炭素です。素材だけを見れば、石炭や鉛筆の芯の原料と変わりません。では、美しいダイヤモンドはなぜ、あのように輝いているのでしょうか。ダイヤモンドは、何万年もの長い間、地中深いところで、地球のプレートによる強大な圧力とマグマの高熱にさらされ続けて化成されています。ダイヤモンドの硬度や美しい輝きは、過酷な環境を耐え抜いた試練の賜なのです。私たちも持って生まれた資質や能力は、さほど変わらないと思えます。しかし、人生をいかに過ごすのかによって大きく変わります。



子どもたちに返した面接評価用紙には、これまでの才能や年齢よりもこれからは「挑戦する気持ちを大切に、自分の夢に向かってチャレンジしてください」と言う内容などを書かせてもらいました。自分はただの鉛筆の芯で終わるのか、それともダイヤモンドのように美しく光り輝くのかはみなさんの気持ちと行動次第だと思います。